



「子どもの家」での芝植えの作業（サンマテオ）

いつもと違う「子どもの家」でのスタディツアー

＜スタディツアー・海外研修事業：担当スタッフからのレポート＞

アイキャンでは、フィリピンの路上やごみ処分場周辺で生活する人々・子どもたちと日本の人々が交流するスタディツアーを、2000年から実施しています。今夏は4回開催し、この内、9月14～18日のツアーでは、いつもと一部異なる内容を盛り込み、これに大学生6名が参加しました。

ツアー中、ゲームや身振り手振りでの交流で、参加者は住民との距離を一気に縮めていき、同時に、直接見聞きする話から、社会問題への理解を深めていきます。ある参加者は、「僕は路上に置いて行かれ、探したけど家族は見つからなかった。それからずっと路上で暮らしてきた。」という路上の子どもの話を聞き、「目の前にいる笑顔の子が、過去にあんな経験をしていたのが信じられない。その現実と、何もできない自分が悔しくて悲しい。」と涙していました。一方、家族を支えるために朝から晩まで市場で働く子どもなど、幼くとも現実に果敢に立ち向かう姿に、「これまでの自分は頑張ってきたと思っていたけど、子どもたちの頑張りを見て、まだまだできることがあると思った。」と感化されている参加者もいました。

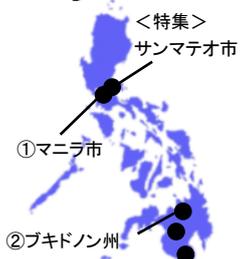
ツアー後半では、ボランティア活動の要素も取り入れ、9～16歳の元路上の子ども6名が入所するアイキャンの児童養護施設「子どもの家」にて、子どものカウンセリングや遊び場として機能する芝生スペースを作るための苗植えを行いました。90㎡の敷地に何千とある苗を植えていく作業も、参加者は「子どもたちが遊ぶ姿を想像するだけで頑張れる」と汗をかきながら笑顔で取り組んでいました。その一生懸命な後姿につられて、気がつけば入所の子どもも、寮母も、アイキャンスタッフも参加し、最後には皆が一丸となって、芝生スペースを完成させました。

交流や共同作業によって心の距離が縮まっても、ツアーという同じ時間の共有が終われば、皆が元の生活に戻ります。参加者の一人は、「日本に帰ったら、いろんな人に私の経験を伝えたい。事実を知った者、学ばせてもらった者としての責任があると思うから。」と話してくれました。これからもスタディツアーを通して、社会問題を学び、解決に向けて「できること」を実践する人を増やし、子どもにとって平和な社会を実現していきたいと思います。



ICAN 日本事務局
吉田文（よしだあや）
～プロフィール～
岐阜県出身。中京大学
卒業後、留学関連企業
での営業職を経て、
2009年に入職。

Project Site



※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

①路上の子どもたち

9月30日/ルソン島マニラ市

文字が書けるようになる喜び



ドロップインセンターにおいて、路上の子ども15名が、アルファベットを書く練習をしました。ジェイソン君(仮名・7歳)は、「見て見て、僕の字どう?上手でしょ」と、嬉しそうにスタッフに話していました。落ち着き

がなかった子どもたちですが、最近、「勉強をする時はきちんと椅子に座って机に向かう」というルールが守られ、集中して課題に取り組むことができるようになってきています。

②先住民の子どもたち

9月15~16日/ミンダナオ島ブキドノン州

先住民の学校でPTAを組織化



教育省の先住民担当者と協力し、サルマヤグ村の住民に対し、学校のPTAを作るための研修を行いました。PTAの役割について、1つ1つの言葉の概念を先住民ティグワハノンの人々の持つ概念や言葉に置き換えて説明し

ていくことで、研修終盤には、PTAメンバーとして頑張りたいと宣言する人が増え、「自分たちに自信を持ち、活動を実施していきたい」(ミトイさん/30代)などの声が上がりました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

フェアトレード事業

9月17日/愛知

商品の背景から、環境について考える

「環境デーなごや」において、フェアトレード商品を販売しました。参加した4名のボランティアは、アイキャンとの関わりがこれまでもあり、パヤタスごみ処分場周辺での事業やフェアトレードについて、来場者に積極的に説明してくれました。来店者からは、「ごみ山のような環境問題に対し、多くの人が問題意識を持つことが大切」など、様々な意見をいただきました。



インターンシップ事業

9月17日/愛知

インターンが自主企画講座を開催

日本事務局のインターンが、ボランティアに関心がある方向けの講座「できることからはじめよう」を企画、実施し、学生3名が参加しました。講座では、活動内容やボランティアの方の声などを紹介し、その後実践編として街頭募金も体験してもらいました。「また街頭募金に参加したい」「今度はイベントのボランティアをしたい」と、次に向けた意欲も聞かれ、今後に繋がる一歩となりました。



今日の Topic



「子どもの家」の子どもたちとのスカイプ交流を実施

9月28日/愛知

児童養護施設「子どもの家」で暮らす元路上の子ども6名とスカイプで交流する活動に、日本から学生や社会人計9名が参加しました。子どもたちの好きな遊びに関する事から、路上で生活している時、一番辛かった事など、過去の経験に関する事まで、幅広い質問が出ました。参加者からは、「子どもたちの強さに驚かされた」「元気をもらい、自分たちがやるべきことを考えさせられた」などの感想がありました。

今日の Media

9月1日 あいち国際プラザ ニュースレター 活動紹介 9月21日 JFN PARK 「ON THE PLANET」 マニラ事務所阿部が出演

今日の ICAN なる

◎中野さん、ボランティアのほうも、いつもありがとうございます!

マンスリーパートナー 中野雅俊さん

「自分が見たもの、思いを話せるようになりました」

インタビュー:9月3日

私は昔から、メディアを通じて世界の貧困について知る度に、「自分もいつか何かできないか」と漠然と思いつつも、行動に移せずにいました。そんな中、6月に名古屋で開催された「スタディツアー合同説明会」で、アイキャンのスタッフが、フィリピンの状況やツアーの内容を説明しているのを聞いて興味を持ち、8月のスタディツアーに参加しました。

ツアーに行く前は、住民に込み入った事を聞いてはだめなのではないかと思っていましたが、外国から来た見知らぬ私を笑顔で出迎えてくれ、明るく優しく普段の生活について教えてくれました。中学生で、家庭の事情で学校に行けていない子も「いつか学校を卒業して良い仕事に就いて、家族を食わせていきたい」と話してくれ、自分の子供時代と比べて何て立派なんだと思いました。

以前は、海外の貧困に関するニュースやボランティアについて、同僚や家族に「興味が無い」という反応をされるのが怖くて話せませんでしたが、帰国後、自分が見てきた状況や、自分に何ができるか、どうしたいかを積極的に話せるようになりました。また、マンスリーパートナーになった事で、前よりもお金についてしっかり考え、普段何となくしていた無駄遣いを思い止めて、節約するようになりました。ツアーから数ヶ月経った今も、フィリピンでの日々の夢を見ます。日本事務局でのパソコン作業ボランティアなど、これからも私にできることをしていきたいと思います。



【編集者から一言】 次回スタディツアーの日程は、2017年2月22~26日に決まりました。マンスリーパートナーの方には、ツアー代金が割引となります!